



あらゆる賞賛は、アッラーのもの。アッラーは、比べ得る何のものもない唯一者であられる。私は、アッラーの外に崇拝する存在はないことを証言し、また、ムハムマドは、アッラーの使徒であることを証言する。

信者たちよ。アッラーは、クルアーン・集合章において述べておられる。

「お前たち信仰する者よ。アッラーを畏れなさい。明日のために何をしたか、各自それぞれ考えなさい。そして、アッラーを畏れなさい。誠に、アッラーは、お前たちの行うことを良く御存じであられる。」(59章 18節)

ヌウマーン・ビン・バシールは、アッラーの使徒 SAW が次のように語ったというハディースを聞いたとして伝えている。「…人体の中に一塊の肉があり、それが正常なうちは身体全体も正常でそれが悪くなると身体全体も悪くなってしまう。それこそが(人のモラルを支配する)心臓(アラブ人は思考や精神活動の根源は心臓にあると考えていた。)であり、(善悪の境目)に用心すべきである。」心臓というものは、身体の動きを適応させ支配する機能を持つ。心臓は、反省し、熟慮し、また、注意喚起し、記憶に係わる。また、心臓は、心声を聞き取り判断し、創造主の思いを感知する機能を持ち、創造主と、創造主の教えへの服従を促す役目を果たす。

アッラーは、クルアーン・戦利品章において述べておられる。

「信仰篤い者とは、アッラーのことに話が進んだ時、胸(心臓)が(畏敬の念で)ざわめくのを感じる者たちで、御印が読誦されるのを聞いて信心を深め、主への信頼を高める者たち。」(8章 2節)

即ち、心臓は、時には、心とも言われるが、信仰心を支配し、その結果、アッラーを思うことを通じて心を満たすことに係わって来る。アッラーは、クルアーン・雷電章において述べておられる。

「これらの信仰篤い者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」(13章 28節)

心が安らぐとは、心臓が静かに鼓動しているということでもあるが、主を崇拝することに心臓が大いに係わっているということであり、主から課された義務を果たし、アッラーが設けられた神聖なものを尊重し、儀礼の務めを果たすということにつながるのである。アッラーは、クルアーン・巡礼章において述べておられる。

「…アッラーの儀式を尊重する態度は、誠に、心の敬虔さから出てくるもの。」(22章 32節)

そして、健全な心臓というものは、感情や感動を他人と分かち合い、周囲の者を良い気分にするものである。



アッラーは、クルアーン・戦利品章において述べておられる。

「また、その御方は、彼ら（信者）の心を一つに結ばれる。お前たちは、地上の一切のものを費やしたとしても、彼らの心を一つに結ぶことは出来ない。だが、アッラーは、彼らを結合させる。…」(8章 63節)

もっと素晴らしいこととして、静かに動く心臓というものは、弱い者や貧しい者、孤児たちへの同情や優しさとして現れるということがある。こうした優しい心というものが、良い心臓の持つ価値の表れである。

アッラーは、クルアーン・詩人たち章において述べておられる。

「その日には、財宝も息子たちも、役には立たない。」「ただ、汚れのない心を、アッラーに捧げる者だけは別である。」(26章 88—89節)

預言者さま SAW は、述べておられる。「楽園の住人には、三つの内の何らかの特徴がある。その中の一つは、慈悲深く親切な心を持っていることである。」 預言者さま SAW は、最も慈悲深く優しい方であられ、それ故、教友の多くもそうであった。教友たちは、預言者さま SAW が率いる集団の中の最良の人々で、彼らは、アッラーの教えを心から受け入れ守り、アッラーの創造物、即ち、人にも動物にも優しく、木々や物をも大事にしたという。

預言者ムハマド、教友とその一家に祝福と平安がありますように。そして、正当なカリフ、アブー・バクル師、ウマル師、ウスマーン師、アリー師と、正しい道に従う者たちに、祝福と平安がありますように。

アッラーよ。心臓が信仰心、優しさの係わることを理解し、心臓に注意を払う者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。あなたさまを称讃し、あなたさまに感謝する者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。あなたさまを愛し、預言者さま SAW を愛する者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。預言者ムハマド SAW をお手本として従い、イスラームの教えを守る者に、して下さい。

アッラーよ。私たちの信仰心を強くして下さい。私たちの過ちを御赦し下さい。

アッラーよ。仕事に成功を、そして安心と安全を御与え下さい。 アミーーン